

目次

扉
口絵

序

発刊のことば

刊行にあたって

例言

伊那市史現代編（題字 伊那市長）

伊那市史刊行会長
伊那市長

三澤 功博

伊那市史刊行会事務局長
伊那市教育委員会教育長

伊澤 一雄

伊那市史編纂委員長

赤羽 篤

第一章 戸口

第一節 戸口の統計……………三

一 概説……………三

二 明治初期の戸口……………四

第二節 戸口の推移……………六

一 伊那地域の戸口の推移……………六

二 地区別の戸口の推移……………八

三 公営住宅の建設及び住宅団地の造成……………三

第三節 人口の動態……………一五

一 人口の自然動態……………一五

二 人口の社会動態……………一七

第四節 人口の構成……………三

一 産業別就業人口……………三

二 労働力状態	二四
三 年齢別人口の構成	二七

第二章 政治

第一節 総説	三〇
--------	----

一 行政の変遷	三〇
二 明治以降の町村合併の系図	三〇
三 旧町村歴代町村長	三三

第二節 旧町村の政治	三三
------------	----

一 伊那町の政治	三三
二 富県村の政治	三九
三 美篔村の政治	三七
四 手良村の政治	三九
五 東春近村の政治	三〇七
六 西箕輪村の政治	三三
七 西春近村の政治	三三
八 戦中戦後の諸相	三三

第三節 伊那市の誕生	三六
------------	----

一 町村合併の促進	三六
二 合併までの経過(概要)	三六

第四節 伊那市の政治	三六
------------	----

三 合併の際の協議・協定事項(概要)	三六
四 西春近村の編入合併	三六
五 境界変更	三六
一 概説	三七
二 財政	三七
三 社会福祉	三八
四 保健・衛生	三九
五 治安	三九
第五節 諸官衙	三四
一 国の出先機関	三四
二 長野県の出先機関	三七
三 上伊那関係の機関	三〇

第三章 産業經濟

第一節 總 說……………三三

一 伊那市の産業立地……………三三

二 土地の開發と産業經濟……………三六

三 交通の發達と産業經濟……………三六

四 産業經濟の史的概観……………三〇

五 産業基本計画……………三六

第二節 農 業……………三三

一 農業環境……………三三

二 農業概況……………三〇

三 農業生産……………三三

(一) 稻 作……………三三

(二) 麦と雜穀……………三六

(三) 養 蚕……………二五

(四) 園 芸……………二九

(五) 工芸作物……………三五

(六) 畜 産……………三八

(七) 農産加工……………三七

四 土地の開發と改良……………三九

(一) 初期の耕地整理……………三九

第三節 林 業……………三七

一 概 説……………三七

二 林野と農業生活……………三七

三 林野制度……………三七

(一) 林野整備……………三九

(二) 部落有林の統一と入会林の分割……………三三

(三) 造林奨励……………三九

四 財産区有林と村の林野……………三七

五 戰中戦後の林業……………三三

六 林 道……………四〇

(二) 三峰川総合開發事業……………三三

(三) 天竜川総合開發事業……………三五

(四) 西天竜開發事業……………三五

(五) 中央自動車道の建設と伊那西部農業開發事業……………三二

(六) 第一次農業構造改善事業……………三四

(七) 第二次農業構造改善事業……………三五

(八) 農地改革及び開拓組合……………三七

五 水 利……………三五

六 農業協同組合……………三三

七 森林組合	四〇七	六 戦後における工業の変遷	四七〇
八 学校林	四〇八	七 電気関係	四七〇
九 国有林(伊那営林署)	四〇六	八 伊那市の基本計画と工業	四六六
第四節 水産業	四〇七	第七節 商業	四七〇
一 明治期・大正期	四一七	一 概説	四七〇
二 昭和期	四一九	二 明治・大正時代	四七五
三 天竜川漁業協同組合	四二〇	三 大正末期から第二次世界大戦	四八四
四 養鱒業	四三三	四 第二次世界大戦後	四八九
五 漁法の変遷	四三三	五 昭和四十年代以後	四九三
第五節 鉱業	四三五	六 伊那商工会議所等	四九四
第六節 工業	四三七	第八節 金融	四九六
一 概説	四三七	一 概説	四九八
二 明治初期の工業	四三三	二 明治期の金融	五〇三
三 製糸業を中心とした伊那市域の工業	四三三	三 伊那市の金融機関	五〇六
(一) 製糸業の発達と推移	四三三	第九節 観光	五〇五
(二) 器械製糸	四三六	一 観光と観光活動の発展	五〇五
(三) 職事情と金融	四三六	二 観光開発に払ってきた苦心と経緯	五〇六
(四) 伊那市域の製糸業の消長	四三三	三 今後の課題	五〇九
四 蚕種製造業	四三七	四 現在の観光資源と展望	五〇〇
五 経済恐慌と以後の製糸業	四三三		

第四章 交通運輸・通信・報道

第一節 交通運輸

一 交通運輸の発達と変遷	五五
(一) 明治時代の主要道路及びその改修と発達	五五
(二) 明治時代の運輸	五〇
(三) 橋梁の発達	五八
(四) 伊那電気鉄道・国鉄飯田線及び高速電車	五七
(五) 自動車交通の発達	五九
二 交通運輸の現況とその影響	六〇
(一) 道路・橋梁の現況	六〇
(二) 中央自動車道の開通とその影響	六九
(三) 国鉄飯田線の運輸状況	六三
(四) バス交通の現況	六七
(五) トラックによる貨物輸送	六一
(六) 自動車の普及と交通対策	六六

第二節 通信

一 郵便	六四
(一) 郵便局の創設と郵便事業の発達	六四
(二) 郵便の現況	六七
二 電信・電話	七〇
(一) 電信	七六

第三節 報道

(一) 電 話	七三
(二) 有線放送電話	七二
(三) 新聞	七九
一 新聞	七九
(一) 新聞の創刊と発達	七九
(二) 新聞の現況	七九
二 ラジオ・テレビ	七九
(一) ラジオ放送の開始と放送網の拡充	七九
(二) 伊那市のラジオ普及と発達状況	七八
(三) テレビの普及と視聴状況	七九

第五章 文 化

目次	
第一節 教 育	七七
一 学校教育	七七
(一) 『学制』施行以前の教育	七七
(二) 義務教育諸学校	五一
(三) 中等学校・高等学校	六七
(四) 専門学校・大学	六九
二 その他の教育機関	六三
三 教育行政	六三
四 社会教育	六六
(一) 概 説	六六
(二) 公民館	六七
(三) 図書館・博物館・市民会館	六七
(四) 社会教育諸団体	六五
(五) 社会教育関連行事	六六
五 同和教育	六七
六 教育関係団体	六七

第二節 学 芸	六八
一 概 説	六八
二 文 学	六八

第三節 宗 教	一〇〇
一 明治以降の宗教行政の概説	一〇〇
(一) 短 歌	八一
(二) 俳句文学	八六
(三) 詩	九五
(四) 小 説	九三
(五) 随 筆	九三
三 国語・国文学	九四
四 美 術	九五
(一) 絵 画	九五
(二) 版 画	九六
(三) 彫 刻	九六
(四) 工 芸	九六
(五) 書 道	九六
五 芸 能	九七
(一) 華道・茶道	九七
(二) 音 楽	九七
(三) 演 劇	九七
六 体 育	九八
七 修史その他	一〇五

二 仏 教	103	三 伊那市の未指定文化財	107
三 神 道	103	四 その他の文化財	107
四 キリスト教	104	第五節 石造文化財	107
五 その他の主な宗教団体	105	一 はじめに	107
第四節 文化財	105	二 石造文化財各説	108
(一) 伊那市の文化財保護活動	105		
(二) 伊那市の指定文化財	106		
第六章 民 俗			
第一節 衣 生 活	109	一 間 取 り	116
一 衣 服	109	二 居住の習俗	117
二 織 ・ 染	114	三 生産の場としての民家	117
第二節 食 生 活	116	四 格納の場としての民家	117
一 主 食	116	第四節 交通・交易	117
二 副 食	119	一 交 通	117
三 晴 の 食	123	二 交 易	118
四 食 事	124	第五節 社会生活	118
五 飲食用具	125	一 ムラの組織と運営	118
六 塩・醬油・味噌	126	二 年齢集団	118
第三節 住 居	126	三 家の生活	118

第六節 信 仰……………二六

一 氏神・産土神……………二六

二 祝 殿……………二六

三 山の神……………二六

四 道祖神……………二六

五 民間信仰と講……………二六

第七節 民俗知識……………二八

一 前 兆……………二八

二 卜 占……………二八

三 禁 忌……………二八

四 呪 術……………二八

第八節 民俗芸能……………二九

一 舞 と 踊……………二九

二 民 謡……………二九

(一) しごと唄……………二九

(二) 盆踊唄・祝唄など……………二九

(三) おんたけやま・伊那節……………二九

第九節 人の一生……………三五

一 産育に関する習俗……………三五

二 成人に関する習俗……………三五

三 婚姻に関する習俗……………三五

四 年祝に関する習俗……………三五

五 喪葬に関する習俗……………三五

第十節 年中行事……………三六

一 正月行事……………三六

二 春・夏の行事……………三六

三 盆 行 事……………三六

四 秋・冬の行事……………三六

五 歳暮行事……………三七

第十一節 伝 承……………三七

第十二節 伊那市の方言……………三八

第七章 集 落

第一節 概 説	一三七
第二節 伊那地区	一三〇
第三節 富県地区	一三〇
第四節 美篤地区	一三〇
第五節 手良地区	一三六

参考文献

- 現代編執筆者一覧
- 伊那市史刊行会役員
- 伊那市史現代編編集委員
- 伊那市史刊行会事務局
- あとがき

第六節 東春近地区	一三七
第七節 西箕輪地区	一三六
第八節 西春近地区	一三九
第九節 伊那市隣接地区	一四〇

伊那市史現代部長 荻原 貞利

表見返し 伊那市の中心部(I) (航空写真)
 裏見返し 伊那市の中心部(II) (航空写真)
 目次に掲載した章・節・項・目のうち、目については必
 要と思われる箇所のみにとどめた。